

## 佳作

### 常識を覆すデザイナー

秋田県湯沢市立湯沢北中学校

3年 高橋 雪月花

新しい服を買い、身にまとう瞬間にはつい夢中になってしまう。昔から多様な色、形、素材を活用し、たくさんの種類の服が作られてきた。その多様性に心惹かれた私は、ファッションの歴史や哲学に強い関心を持ち、調べるようになった。

インターネットや書籍を通じて学んだことの中で、私が特に感銘を受けたのは、服を通じた「革命」が世界中のブランドで行われているという事実である。

例えば、「CHANEL」の創設者であるココ・シャネルは貴族中心の時代に、身分関係なく誰もが着られる服を制作した。単なるデザインではなく、着る人の生き方そのものを変えるような服を生み出したのである。また、「GUCCI」の創設者であるグッチオ・グッチはイタリアの伝統や職人技を大切にしながらも、ジェンダーや人種、年齢といった枠組みにとらわれない表現を行い、ブランドを通じながら多様性を発信した。

日本企業である「UNIQLO」では、トレンドに流される消費型のファッションとは一線を画し、実用的で長く使える合理的な服を生み出してきた。このように、さまざまなファッションブランドが服の在り方を問い直し、理にかなった服を提供することで、誰もが自由なファッションを楽しめる時代になったと知った。

この出来事をきっかけに、私はファッションデザイナーになりたいと確信した。私にとって、政治や経済だけではなく、人々に直接寄り添う「衣服」に視点を当てて革新するデザイナーがとても目新しかった。挑戦を恐れず、服を通じて世界の常識を一変させたデザイナーたちの生き様に魅了されたのだ。

彼らのように、大きな影響力をもたらしたデザイナーたちには、表現力だけではなく、時代を先駆けて問いを投げかけ、新たな価値観を提案する力がある。このデザイナー像に少しでも近づくために実行していることが三つある。

一つ目は、世界各地の歴史背景や文化を調べることだ。ファッションは宗教や気候、階級制度などさまざまな要素と結びついている。表面的な模倣ではなく、本質を理解したデザインを取り入れることで、より説得力のある表現をすることができると考えた。また、世界各地の特性を生かし、独創的な表現をすることもできる。多様な文化へのリスペクトを持ち、広い視点で創作活動に取り組めるように、歴史や文化を継続して学習していきたい。

二つ目は、SDGsなどの社会的問題への理解を深めることだ。ファッション業界は近年、大量生産・大量廃棄による環境負荷が大きな問題となっている。デザイナーは美しさだけでなく、「どう作るか」「どう残すか」という倫理的な視点を持つ必要があると私は考える。素材選びから製造工程、廃棄に至るまでのすべての過程を見直し、環境に配慮した持続可能なファッションを追求していきたい。

三つ目はさまざまな分野を経験することだ。アート、建築、文学、音楽などはファッションと共鳴する要素が数多くある。これらのような異分野からインスピレーションを吸収し、豊かな感性を養うことが重要だと考えた。

これらの三つのことにいそしみ、構想力や知識、感性といったデザイナーとして必要な力を高めていきたいと考えている。しかしこれだけでは、世界に影響をもたらすようなデザイナーにはほど遠い。大切なのは知識や技術の習得に加え、自分自身の思想を「ファッション」として形で表現し続ける姿勢だと思う。

どれだけ時代が変わっても、人が服を通して自由に自分を表現したり、多様な価値観を共有したりしようとする意志は変わらない。このような、人の権利、社会の需要に応えられるよう、人々の相互理解や世界平和につながる服を作れるデザイナーになりたい。

そのため私は、人々の生活に寄り添い、社会に新たな視点をもたらすファッションを追求して、一貫した信念や挑戦し続ける姿勢を持ち続けていきたい。